

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-31	高等学校	地理歴史科	世界史 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 B314	高校世界史 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

- (1) 平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「世界史 B」の目標、内容、内容の取扱いの趣旨に従ったが、高等学校における世界史学習上の問題点や現場における指導例などを考慮して、一部独自の構成を加えて本書を作成した。
- (2) 学習指導要領世界史 B の内容である「世界史への扉」「諸地域世界の形成」「諸地域世界の交流と再編」「諸地域世界の結合と変容」「地球世界の到来」の趣旨に従って、部・章立てをおこなった。
- (3) 編修にあたっては、幅広く世界史の知識を学び、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。
- (4) 本書は標準単位数の 4 単位で授業をおこなう高等学校で使用されることを前提として、やや詳しいと思われる事項・事柄は省き、世界史のなかの基本的な事項・事柄を系統的に学べることをめざして編修した。
- (5) 世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目し、各地域世界の叙述の冒頭に風土を簡潔にのべた。また、日本の歴史と世界の歴史の相互の関連に配慮する項目を置いた。
- (6) 各部の初めに「概観」を設け、その部で取扱う時代の大まかな概念を示した。また、各部末の「主題学習」では、歴史学習の基本的技能を習得させるため具体的事例をあげて説明し、かつ生徒が主体的に考察できるよう促す配慮を施した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界史を学ぶみなさんへ 世界史への扉 ①自然災害と人類 ②日本の年中行事・祭り与世界 ③弦楽器の世界史	*冒頭に「世界史を学ぶみなさんへ」を設け、生徒に世界史を学ぶことの意味をわかりやすく説明し、つづく「世界史への扉」とともに、世界史学習の導入となるようにした(第1号)。  *「世界史への扉① 自然災害と人類」で、環境問題の重要性を提示した(第4号)。  *「世界史への扉①・②・③」で日本人にとっての世界史という観点を盛り込み、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう配慮した(第5号)。	表見返し裏、4～10ページ  4～5ページ  4～10ページ

<p>第Ⅰ部 概観</p> <p>序章 先史の世界</p> <p>第1章 オリエンと地中海世界</p> <p>1 古代オリエン世界</p> <p>2 ギリシア世界</p> <p>3 ローマ世界</p> <p>第2章 アジア・アメリカの古代文明</p> <p>1 インドの古典文明</p> <p>2 東南アジアの諸文明</p> <p>3 中国の古典文明</p> <p>4 南北アメリカ文明</p> <p>【2世紀の世界】</p> <p>【統治システムと宗教① 古代国家と宗教】</p> <p>第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成</p> <p>1 草原の遊牧民とオアシスの定住民</p> <p>2 北方民族の活動と中国の分裂</p> <p>3 東アジア文化圏の形成</p> <p>主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界</p>	<p>*世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目して、オリエン</p> <p>ト世界、地中海世界、南アジア世界、東南アジア世界、東アジア世界、南北アメリカ文明の冒頭でそれぞれの風土を簡潔に述べた(第1号)。</p> <p>*東南アジア、ラテンアメリカなどの歴史についても基本的な事柄について言及し、地域の欠落がないように努めた(第1号)。</p> <p>*「時間軸からみる諸地域世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した(第2号)。</p> <p>*「人物コラム 卑弥呼」で日本人にとっての世界史という観点を盛り込み、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう配慮した(第5号)。</p>	<p>14、21、35、39、42、48ページなど</p> <p>39～41ページ、48～49ページなど</p> <p>62ページ</p> <p>57ページ</p>
<p>第Ⅱ部 概観</p> <p>第4章 イスラーム世界の形成と発展</p> <p>1 イスラーム帝国の成立</p> <p>2 イスラーム世界の発展</p> <p>3 イスラーム化の進展</p> <p>4 イスラーム文明の発展</p> <p>【8世紀の世界】</p> <p>第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展</p> <p>1 西ヨーロッパ世界の成立</p> <p>2 東ヨーロッパ世界の成立</p> <p>3 西ヨーロッパ中世世界の変容</p> <p>4 西ヨーロッパの中世文化</p> <p>【統治システムと宗教② 中世キリスト教とイスラーム】</p> <p>第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開</p> <p>1 トルコ化とイスラーム化の進展</p> <p>2 東アジア諸地域の自立化</p> <p>3 モンゴルの大帝国</p> <p>【13世紀の世界】</p>	<p>*世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目して、ヨーロッパ世界の冒頭でその風土について簡潔に述べた(第1号)。</p> <p>*アフリカ、東ヨーロッパなどの歴史についても基本的な事柄について言及し、地域の欠落がないように努めた(第1号)。</p> <p>*「空間軸からみる諸地域世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した(第2号)。</p>	<p>76ページ</p> <p>70～71ページ、83～87ページなど</p> <p>112ページ</p>

<p>主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界</p>		
<p>第Ⅲ部 概観</p> <p>第7章 アジア諸地域の繁栄</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東アジア世界の動向</li> <li>2 清代の中国と隣接諸地域</li> <li>3 トルコ・イラン世界の展開</li> <li>4 インド・東南アジア世界の展開</li> </ol> <p>第8章 近世ヨーロッパ世界の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ヨーロッパ世界の拡大</li> <li>2 ルネサンス</li> <li>3 宗教改革</li> <li>4 ヨーロッパ主権国家体制の形成</li> </ol> <p>【16世紀の世界】</p> <p>第9章 近世ヨーロッパ世界の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 重商主義と啓蒙専制主義</li> <li>2 ヨーロッパ諸国の海外進出</li> <li>3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会</li> </ol> <p>第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業革命</li> <li>2 アメリカ独立革命</li> <li>3 フランス革命とナポレオン</li> </ol> <p>第11章 欧米における近代国民国家の発展</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ウィーン体制の成立</li> <li>2 ヨーロッパの再編</li> <li>3 南北アメリカの発展</li> <li>4 19世紀欧米の文化</li> </ol> <p>【統治システムと宗教③ 近世・近代の信教統制と政教分離】</p> <p>【19世紀の世界】</p> <p>第12章 アジア諸地域の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 西アジアの変容</li> <li>2 南アジア・東南アジアの植民地化</li> <li>3 東アジアの激動</li> </ol> <p>主題学習Ⅲ 資料から読みとく歴史の世界</p>	<p>*「資料から読みとく歴史の世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。</p> <p>*「資料から読みとく歴史の世界」では、支配に抵抗する民衆について取りあげ、主体的な考察を促した（第3号）。</p> <p>「コラム ペリーと江戸幕府の外交戦」「日本の近代化と対外進出」で日本人にとっての世界史という観点を盛り込み、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう配慮した（第5号）。</p>	<p>190 ページ</p> <p>190 ページ</p> <p>188～189 ページ</p>
<p>第Ⅳ部 概観</p>	<p>*太平洋地域などの歴史についても基本的</p>	<p>198～199 ページなど</p>

<p>第13章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>1 帝国主義と列強の展開</p> <p>2 世界分割と列強対立</p> <p>3 アジア諸国の改革と民族運動</p>	<p>な事柄について言及し、地域の欠落がないように努めた（第1号）。</p>	
<p>第14章 二つの世界大戦</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動</p> <p>4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略</p> <p>5 第二次世界大戦</p>	<p>*「資料を活用して探究する地球世界の課題」のなかで具体的な主題を設け、生徒の主体的な探究を通して、歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。</p> <p>*第IV部本文のなかで、20世紀の大戦をへて、人類が様々な努力により平和な世界をめざしていること、また、民主化・貧困・難民などの諸問題について理解を促す内容を提示した（第3号）。</p>	<p>259 ページ</p> <p>211 ページ、253 ～ 255 ページ、259 ページなど</p>
<p>第15章 冷戦と第三世界の独立</p> <p>1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立</p> <p>2 冷戦の激化と西欧・日本の経済復興</p> <p>3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り</p> <p>4 石油危機と世界経済の再編</p>	<p>*「資料を活用して探究する地球世界の課題」では食料危機について取りあげ、主体的な考察を促した（第3号）。</p>	<p>259 ページ</p>
<p>第16章 現在の世界</p> <p>1 社会主義世界の変容とグローバル化</p> <p>2 途上国の民主化と独裁政権の動揺</p> <p>3 深刻化する貧困と地域紛争の激化</p> <p>4 現代文明の諸相</p>	<p>*コラム「他文化主義」社会の課題」では、他文化・他文明の共生について触れた（第3号）。</p>	<p>257 ページ</p>
<p>【統治システムと宗教④ アメリカ合衆国と宗教】</p>	<p>*第IV部現代史の本文などで、環境問題の重要性を提示した（第4号）。</p>	<p>246 ページ、256 ～ 257 ページなど</p>
<p>主題学習Ⅳ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p>	<p>*「日露戦争と日本の韓国併合」「日本の動きと東アジアの民族運動」「満州事変・日中戦争と中国の抵抗」「アメリカの繁栄と西欧・日本の経済復興」などで日本人にとっての世界史という観点を盛り込み、世界の歴史における日本の位置付けが明確になるよう配慮した（第5号）。</p>	<p>202 ページ、216 ～ 217 ページ、222 ～ 223 ページ、237 ～ 238 ページなど</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) 可能なかぎり平易な叙述に努め、また振り仮名や参照ページなどもていねいに挿入し、生徒が自主的かつ積極的に学習できるよう工夫した。
- (2) 多数の図版を挿入し、本文の理解を助け、興味を増すよう工夫した。歴史地図はカラーユニバーサルデザインも考慮して可能な限り読図しやすくなるよう配慮した。
- (3) 世界史への興味・関心を促すコラムや人物コラムを多数設けた。
- (4) 「世界史への扉」の内容は、世界史学習の導入に当たることを考慮して、生徒が興味・関心を持てる身近なテーマを選び、平易に記述した。
- (5) 各地域の空間的つながりをダイナミックに捉える2世紀・8世紀・13世紀・16世紀・19世紀の同時代地図を、適切な場所に設けた。

- (6) 各部に設けたコラム「統治システムと宗教」では、本文の内容を統治と宗教の関係という視点を通して振り返り、さらに理解を深められるようにした。
- (7) 高等学校現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能なかぎり記述に生かすように努めた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-31	高等学校	地理歴史科	世界史 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 B314	高校世界史 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 第Ⅰ・Ⅱ部では、それぞれ特有の自然環境や地理的条件のもとで、独自の文化的枠組みをもつ地域世界が形成されたこと、第Ⅲ・Ⅳ部では各地域間の交流が密度を増すなかで、それぞれの文化的枠組みが変容をせまられたことや、こうした世界の一体化とそれに続くグローバル化の過程など、基本的事項が理解できるように叙述した。
- (2) 「世界史への扉」では、世界史学習の導入として3つのテーマを取りあげたが、身近な視点から世界史への興味・関心が高まるよう、テーマ1・3においても日本に関する記述を盛り込んだ。
- (3) 「主題学習」では、世界史理解のために必要な技能が習得できるよう、方法・課題を明示した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史への扉 ①自然災害と人類 ②日本の年中行事・祭りと世界 ③弦楽器の世界史	(1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史	4～10ページ	3
第Ⅰ部 概観 序章 先史の世界 第1章 オリエントと地中海世界 1 古代オリエント世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界  第2章 アジア・アメリカの古代文明 1 インドの古典文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明  【2世紀の世界】 【統治システムと宗教① 古代国家と宗教】	(2) 諸地域世界の形成  ア 西アジア世界・地中海世界  イ 南アジア世界・東南アジア世界  ウ 東アジア世界・内陸アジア世界	11～62ページ	1 12  10

<p>第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成</p> <p>1 草原の遊牧民とオアシスの定住民</p> <p>2 北方民族の活動と中国の分裂</p> <p>3 東アジア文化圏の形成</p> <p>主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界</p>	<p>エ 時間軸からみる諸地域世界</p>		<p>5</p> <p>1</p>
<p>第Ⅱ部 概観</p> <p>第4章 イスラーム世界の形成と発展</p> <p>1 イスラーム帝国の成立</p> <p>2 イスラーム世界の発展</p> <p>3 イスラーム化の進展</p> <p>4 イスラーム文明の発展</p> <p>【8世紀の世界】</p> <p>第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展</p> <p>1 西ヨーロッパ世界の成立</p> <p>2 東ヨーロッパ世界の成立</p> <p>3 西ヨーロッパ中世世界の変容</p> <p>4 西ヨーロッパの中世文化</p> <p>【統治システムと宗教② 中世キリスト教とイスラーム】</p> <p>第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開</p> <p>1 トルコ化とイスラーム化の進展</p> <p>2 東アジア諸地域の自立化</p> <p>3 モンゴルの大帝国</p> <p>【13世紀の世界】</p> <p>主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界</p>	<p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界</p>	<p>63 ~ 112 ページ</p> <p>13</p> <p>6</p> <p>1</p>	<p>7</p> <p>13</p> <p>6</p> <p>1</p>
<p>第Ⅲ部 概観</p> <p>第7章 アジア諸地域の繁栄</p> <p>1 東アジア世界の動向</p> <p>2 清代の中国と隣接諸地域</p> <p>3 トルコ・イラン世界の展開</p> <p>4 インド・東南アジア世界の展開</p> <p>第8章 近世ヨーロッパ世界の形成</p> <p>1 ヨーロッパ世界の拡大</p> <p>2 ルネサンス</p> <p>3 宗教改革</p>	<p>(4) 諸地域世界の結合と変容</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界</p>	<p>113 ~ 190 ページ</p> <p>7</p> <p>7</p>	<p>7</p> <p>7</p>

4 ヨーロッパ主権国家体制の形成			
【16世紀の世界】			
第9章 近世ヨーロッパ世界の展開			6
1 重商主義と啓蒙専制主義			
2 ヨーロッパ諸国の海外進出			
3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会			
第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ウ 産業社会と国民国家の形成		5
1 産業革命			
2 アメリカ独立革命			
3 フランス革命とナポレオン			
第11章 欧米における近代国民国家の発展			9
1 ウィーン体制の成立			
2 ヨーロッパの再編			
3 南北アメリカの発展			
4 19世紀欧米の文化			
【統治システムと宗教③ 近世・近代の信教統 制と政教分離】			
【19世紀の世界】			
第12章 アジア諸地域の動揺	エ 世界市場の形成と日本		6
1 西アジアの変容			
2 南アジア・東南アジアの植民地化			
3 東アジアの激動			
主題学習Ⅲ 資料から読みとく歴史の世界	オ 資料からよみとく歴史の世界		1
第Ⅳ部 概観	(5) 地球世界の到来	191～259 ペー ジ	
第13章 帝国主義とアジアの民族運動	ア 帝国主義と社会の変容		10
1 帝国主義と列強の展開			
2 世界分割と列強対立			
3 アジア諸国の改革と民族運動			
第14章 二つの世界大戦	イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現		14
1 第一次世界大戦とロシア革命			
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国			
3 アジア・アフリカ地域の民族運動			
4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略			
5 第二次世界大戦			
第15章 冷戦と第三世界の独立	ウ 米ソ冷戦と第三世界		9



<ul style="list-style-type: none"> <li>1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立</li> <li>2 冷戦の激化と西欧・日本の経済復興</li> <li>3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り</li> <li>4 石油危機と世界経済の再編</li> </ul>			
<p>第16章 現在の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 社会主義世界の変容とグローバル化</li> <li>2 途上国の民主化と独裁政権の動揺</li> <li>3 深刻化する貧困と地域紛争の激化</li> <li>4 現代文明の諸相</li> </ul> <p>【統治システムと宗教④ アメリカ合衆国と宗教】</p>	<p>エ グローバル化した世界と日本</p>		<p>6</p>
<p>主題学習Ⅳ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p>	<p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p>		<p>1</p>
計			<p>140</p>